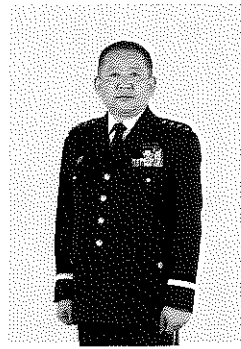


年頭の辞

強靱な陸上自衛隊の創造に向けて

陸上幕僚長

湯浅 悟郎



借行社並びに借行会の皆様、新年おめでとうございます。平素より陸上自衛隊に対する深いご理解とご厚情を賜り、心より御礼申し上げます。

陸上自衛隊は、創隊70周年を迎えた昨年、新型コロナウイルスに係る災害派遣において一人の感染者を出すことなく任務を完遂しつつ、南西地域の防衛態勢の強化や教育訓練体制の充実・強化を図って参りました。またコロナ禍においても、感染拡大防止措置の下、創意工夫を重ねた訓練・演習等により、抑止・対処の実効性の向上を図るとともに、TV会議等を通じた各国との意思の疎通により、安全保障協力の推進と自由で開かれたインド太平洋の実現に寄与して参りました。

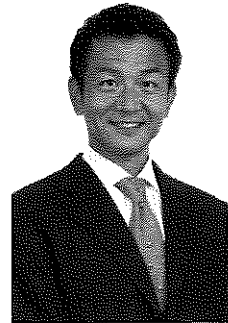
さて、我が国周辺には質・量に優れた軍事力を有する国家による軍事活動の活発化が進んでいます。また、グレーゾーンの事態や軍事と非軍事の境界を意図的に曖昧にしたハイブリッド戦の出現等により我が国を取り巻く安全保障環境は厳しさと不確実性が増しています。

このような中、常に国民と共に存在する陸上自衛隊は、我が国の防衛における「抑止の主体」として、また「領域横断作戦の要」として「多次元統合防衛力」の構築を着実に推進していく所存です。複雑化する安全保障環境に対応するためには、従来の領域における作戦とサイバー等の新たな領域における作戦の組み合わせが極めて重要であり、領域横断作戦を含むあらゆる事態に的確に対応し得る能力等を強化して参ります。また、強固な日米同盟の下、各国との関係強化や民生の安定に向けた努力を継続し、我が国に望ましい安全保障環境を創出するとともに、東京五輪等の国家的行事においても与えられた任務を完遂する所存であります。本年も国民の皆様から頼りにされる存在であり続けるため、強靱な陸上自衛隊を創造することをお誓いするとともに、引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶と致します。

年頭のご挨拶

衆議院議員

小田原 潔



明けましておめでとうございます。森理事長始め借行社の先輩方には今年が良い年になります様祈念申し上げます。

昨年はコロナ禍に苦しめられた一年でした。その様な中でも国会審議は続き、6月に河野太郎防衛大臣はイージス・アショア（以下アショア）配置の手続きを停止しました。閣議決定をひっくり返すのは前代未聞ですが世論の反応は概ね好意的です。

検討すべきはアショアの代替案をどうするかです。現在、1 海底掘削リグ型、2 商船型、3 専用艦型、4 護衛艦型、の四つの案が出ていますが、如何でしょうか。議論は振出しに。人員確保に大変な苦勞をしている海自が更にイージス艦を2隻増やすのか。海自幹部OBには専用艦案を支持する方

もいます。アショアは弾道ミサイル防衛に加え、海自負担軽減の期待がありました。監視と迎撃は陸に任せ、イージス艦はシーレーン防衛に使いたい。海上4案は陸を断念し板挟みになり内局が出した苦肉の策と疑いましたが話を聞くとそうでもなさそうです。

アショアのSPY7レーダーは米海軍が50隻弱に搭載を決めているSPY6より性能が良い、と言う説明。ただし我が国独自でテストする必要があると思います。米軍がテスト済みで実際に使うSPY6に合せる考え方も理解できます。他方、最新でなく、超音速ミサイルに対処できないと分かっている装備を今後30年以上使うのが最善かと言う迷いも出ます。米国がロッキード社とレイセオン社に順番で開発させるから毎回テストをしなければならぬのか、など複雑な事情もありそうです。現実的で実効性のある案を作り出す難しさと、海と陸の任務負担適正分担と、日米共同運用と言う次元の違う三つの難題を解決しなければなりません。

高まる脅威は待つてくれません。一度必要だと言った手前、国の無謬性に縛られて何が何でもイージスをどこかに設置すると言う考えを一旦置いて、あるべき重層的な空の守りのあり方をじっくり考え実現するべきであります。